

大学受験経験談

李業儒

私は2012年10月生として、憧れの東京に参りました。亜細亜友之会外語学院で一年半の日本語学校生活が始まりました。この短い一年半の間に、先生方のご指導と助けの下で、そして自分も一所懸命頑張りましたので、2014年3月無事に国立愛媛大学に合格できました。

留学生の中で、数少ない理系の学生として、愛媛大学の受験経験を皆さんにお伝えしたいと思います。皆さんの役に立てれば幸いです。

まず、「日本留学試験」は留学生にとって日本の学部に入るための最も重要な試験になります。理系の学生にとっても、留学試験の結果も非常に重要です。理系の学生に対して、日本語試験の点数が文系ほど要求されませんが、数学と理科の受験勉強を怠ることはできません。国立大学の理系の学部合格するには、日本語最低280点、数学と理科もそれぞれ120点がないと厳しいかもしれません。留学試験の成績はどちらかというと、合格する最低条件だと考えたほうがよいと思います。

次は、日本の大学受験にもう一つ大事なことである面接について話したいと思います。中国の大学入試では、センター試験の成績だけで合否を決定されるので、大学の先生と会うことは勿論ありません。しかし、日本の大学受験は私立であれ国立であれ、必ず面接試験があります。筆記試験の成績のほかに、面接時の全体的なパフォーマンスも合否判断に影響を及ぼします。一校目の大学の入試の時、筆記試験の復習ばかりして、あまり面接練習をしていなかったため、不合格になりました。その次の愛媛大学を受験する時には、校長先生をはじめ、何人もの先生に面接練習をして頂きました。面接練習の時に、いろいろなコメントと意見も戴けたので、本番の面接にとっても役に立ちました。

最後は、英語のことについて少し紹介したいと思います。理系の学生にとっては、もし国立大学を目指すのであれば、英語の成績も留学試験の成績と同様にとっても重要です。多くの大学は出願する際に、TOEFL或いはTOEICの成績を必要とします。そのため、日本語の勉強と理科の勉強以外に、英語の勉強も欠かせません。英語の点数に関しては、決して全ての学校が高い点数を要求しているわけではありませんが、ある程度の点数が必要になります。そのため、日本の国立大学の理系の学部合格することは簡単なことではありません。留学試験、面接、英語という三つの要素はどれも欠かせない条件です。

自分の努力で何か大きな成果をあげた時の嬉しさは言葉で表現できないほどのものです。ここでこの嬉しさを皆さんと分かち合う時に、亜細亜友之会外語学院の先生方に感謝を申し上げたいと思います。本当にお世話になりました。これから日本に留学に来る後輩の皆さん、楽しい留学生活を送れるように、また理想とする学校に合格できるように願っております。

2014年3月 東京